

## 消化器内科

医 長： 万波 智彦      スタッフ数 :6名(常勤医師 4名、レジデント 2名)

### 「概要と特徴」

日本消化器病学会専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本消化管学会専門医・指導医および日本肝臓学会専門医・指導医の資格を有する常勤医師5名で構成されており、消化管疾患、肝疾患、胆・膵疾患の全てに幅広く対応している。内視鏡検査・治療から IVR を含めた血管造影・治療までバランスよく対応できるのが当院の特徴で、検査や処置の数も県内ではトップグループに属しており十分な経験を積むことができる。また先端医療を担う病院として、全国的レベルから見ても遜色のない最新の治療手技を積極的に取り入れており、当院で施行できない手技はないと言っても過言ではない。近年、内視鏡手術手技が発達し外科系との境界が不明瞭になりつつあるが、低侵襲で最大の治療効果を得ることを目標として、消化器外科とも密接な連携をとりつつ、患者にもっとも適した治療法の選択を行っている。

### 「初期研修の基本的方針」

一般内科研修の中の消化器疾患に関する分野を研修する。初期研修中には基本的な診察方法に始まり、順次侵襲的な検査方法を修得していく。消化器内科医の基本手技として胃透視・腹部 CT の読影や腹部超音波検査の施行および診断、内視鏡画像診断に始まり最終的には上部消化管内視鏡検査の施行までの修得を目標とする。各人の実力に応じて、下部消化管内視鏡検査や IVR を含めた血管造影検査や治療に関して研修を広げることも可能である。

### 「研修予定表」

行 事	曜 日	時 間
上部内視鏡検査	月～金	8:30～12:30
下部内視鏡検査	月～金	13:00～17:00
処置内視鏡等(ESD,EMR,ERCP, DBE,PTCD,RFA,PEIT,TACE etc.)	月～金	15:00～17:00
腹部超音波検査	月～金	8:30～12:30

行 事	曜 日	時 間
内視鏡画像カンファレンス	月	17:30～19:30
消化器内科症例カンファレンス	火	14:30～16:00
ESD カンファレンス	金(第2週)	18:30～21:00
消化器系合同(内科・外科・放射線科・臨床検査科)カンファレンス	水	19:00～20:00

## 「指導体制」

当科では原則資格を有する常勤医師がマンツーマンで研修医の指導を行う。

## 「経験可能な症例や手技」

### 【症例】

- ◎ 食道・胃・十二指腸疾患(食道癌、消化性潰瘍、胃・十二指腸炎、胃癌)
- ◎ 小腸・大腸疾患(イレウス、虫垂炎、痔核・痔瘻、炎症性腸疾患、大腸癌)
- ◎ 肝臓・胆嚢・胆管・膵疾患(ウイルス性肝炎・自己免疫性肝障害・アルコール性肝障害・薬物性肝障害・肝癌・胆石症・胆嚢炎・胆管炎・膵炎・膵癌)

### 【手技】

- ◎ 内視鏡検査(上部、下部、ダブルバルーン小腸内視鏡、カプセル内視鏡、ERCP)
- ◎ 超音波検査(スクリーニング、造影エコー、RFA・PEITなどのIVR)
- ◎ 造影X線検査・腹部血管造影検査
- ◎ 腹腔穿刺、中心静脈ルート確保、胃管・イレウス管の挿入と管理

## 「後期研修について」

専門研修に進んだ場合、消化器系で必要とされる基本的な手技は全て修得可能である。

原則として専門研修終了時には上部消化管内視鏡はもちろんのこと下部消化管内視鏡(全大腸観察)、ERCPによる造影は修得できているはずである。

優秀な人材は治療手技の一部、内視鏡的止血術、内視鏡的食道静脈瘤硬化術・結紮術、内視鏡的粘膜切除術および内視鏡的粘膜下層剥離術等も習得可能である。

当院は各種学会指導施設に認定されており、日本消化器内視鏡学会専門医、日本消化器病学会専門医など取得可能である。

## 「研修責任者よりひとこと」

Q:消化器内科の医師としての将来は？

A:内視鏡手術手技の進歩と消化器疾患の現状を鑑みるかぎり足りなくなることはあっても人余りすることはないと思います。各病院において最も収益に直結する科ですので食いっぱぐれはありません。

Q:内科系に進むか外科系に進むか悩んでいる場合……

A:消化器内科は現在のところ内科と外科の境界が非常に曖昧な領域です。内科系の治療をしながら内視鏡手術等も行えるため、進路を決めかめている人にもおすすめです。